

かほだより

R7-5号
R7. 5. 21

長野県伊那家畜保健衛生所
TEL: 0265-72-2782,
Fax: 0265-72-2765
E-mail: inakachiku@pref.nagano.lg.jp
所在地: 伊那市西町5764
伊那諏訪家畜産物衛生指導協会
TEL&FAX: 0265-76-8086

第1回バルク乳検査が始まります

バルク乳の細菌検査により、乳房炎や搾乳衛生の状態が確認できます。乳質の向上を図るため、搾乳作業や搾乳機器の点検・見直しに努めましょう。

生菌数が多いときは、乳房炎が疑われたり、搾乳衛生や機器等に問題がある場合があります。

また、どの菌種が多いのかを確認することで、改善点が見えてきます。

伝染性乳房炎菌

乳房炎の発生が疑われます。
(必要に応じて、感染牛を特定するための個体乳検査も実施できます。)

環境性細菌

搾乳衛生の不良や搾乳機器の問題、牛乳の冷却不良がある場合に増加します。体細胞数とともに多い場合は、乳房炎の発生が疑われます。

耐熱性菌

搾乳機器やバルクタンクの洗浄不良で増加します。

採材日 上伊那地域・・・6月10日、17日、24日

諏訪地域・・・6月3日

ご協力
よろしくお願いいたします。



バルク乳検査では、マイコプラズマと牛ウイルス性下痢（BVD）の検査も実施しています

マイコプラズマ乳房炎とは

乳房の腫脹や発赤がみられ、泌乳量の激減または泌乳停止が起こります。伝染力が非常に強く、ミルカーを介して感染が広がります。早期発見し、感染牛を隔離または淘汰することが重要です。

BVDとは

妊娠牛への感染により、流産・異常産を起こします。妊娠牛以外が感染すると、免疫力が低下し、様々な感染症に罹りやすくなります。

感染を拡げないためには、感染源となる持続感染牛（PI牛）を早期発見し、淘汰することが重要です。PI牛は虚弱で早期に死亡する場合がありますが、無症状のまま成牛となることもあるため、バルク乳検査などの定期的なスクリーニング検査が有効です。

※PI牛：胎齢100日前後（±20日）の胎子の時に感染して生まれた子牛。出生後、持続的にウイルスを排出し、感染源となる。



バルク乳検査に関するご不明点・ご相談は、
伊那家畜保健衛生所 ☎ 0265-72-2782までご連絡ください

